

# 大学院修了にあたって

## 大学院修了にあたって

顎顔面口腔外科学分野 西川 敦



筆者は中央

僕は本学の卒業生で、2000年に奈良からはるばる新潟までやってきて、早いもので11年がたとうとしています。僕の卒業年度から研修医制度が始まり、地元に戻ってこいって両親の希望はありましたが、1年ぐらいいいかとそのまま大学に残留しました。研修医終了後に帰ることも考えたのですが半年間口腔外科で研修したときに、今まであまりいいイメージの無かった口腔外科の良さが分かり、どうせ若いうちしか自由なこともなかなかできないので大学院生として顎顔面口腔外科に入学することにしました。

口腔外科では通常1年目は、外来、病棟、麻酔科のローテーションを4ヶ月ずつ回って臨床を学び、2年目から研究に入ります。しかし、僕の場合はローテーションの外来の代わりに半年間、秋田県内にある関連病院に出向しました。秋田ではまだまだ未熟な自分が、口腔外科含め一般歯科の治療を初めて一人で任され緊張の毎日でしたが、大学にいる時よりも多くの患者様を担当でき、また病院内の医科の先生との交流など多くの貴重な経験をすることができました。ただ、病院の周囲は自然豊かな地域で、夜0時には多くの飲み屋さんが閉店してしまうのはつらかったですけど……。

秋田から戻ってきて、医学部第一生化学教室で研究させていただくことになりました。研究に入ると今までの臨床と環境が大きく違い、ピペットの使い方から遺伝子の知識やら学生実習の時からだったので、一からもう一度やり直しました。先生方の会話は専門的な会話が多く、ほとんどが暗号にしか聞こえませんでした（今もまだそういうこともあります……）。生化学教室での研究をするにつれ、実験は些細なことで失敗し、実験が成功しても無駄になることもあつたりと、基礎研究ってこんなに大変なんだと気づかされました。しかし、苦勞して実験が成功したときの喜びは大きいものでした。

顎外科では毎年秋に行われる新潟シティマラソンに新入局員が出場することが恒例となっています。研修医の時から僕も新潟シティマラソンに参加したところ、大会で走り終えてからのピールの味が忘れられなく、院3年の頃から色んなマラソン大会に参加するようになりました。そして今年は運よく倍率9.6倍だった東京マラソンに当選したので、最高の舞台で大学院生活最後のマラソンを走ることができ、喜びを感じています。

こんな勢いを生化学教室に持ち込んだところ、もともと活発な先生が多いのもあり、新潟シティマラソンに毎年4~5人ほど出るようになり、さらに他の大会にも一緒に参加するようになりました。その中でも一番の思い出は佐渡トライアスロンにRタイプ（3人でのリレー）に第一生化学のチームで出場したことでした。僕はバイクで参加したのですが、初めて出る種目だったので結果は期待していなかったけど、他の二人の頑張りもあり完走97チーム中27位と予想を上回る成績を収めることができました。

最後に大学院生活を通して顎外科を始め、医学部第一生化学、関連研究室、また関連病院の先生方には本当に迷惑をかけながらもお世話になり、ありがとうございました。また学部生時代から今

まで、新潟で多くの友人や先輩、後輩に出会い、支えられてきたおかげで今の自分があると思います。まだもう少し新潟で生活する予定ですので、今後ともよろしく申し上げます。

## 大学院修了にあたって

矯正科 永井嘉洋

早いもので大学院に入学して4年が経とうとしています。

この文章を書きながら、本当に論文の締め切りまでに間に合うのか不安な日々を過ごしています。

自分が新潟大学大学院に入学したのは少し複雑な事情があります。

出身は新潟県長岡市（旧越路町）で育ち、実家は開業医で小さい頃から新潟大学の先生が出張に来ていたので、新潟大学歯学部と聞くと何となく身近な存在でした。高校生くらいから歯学部進学を意識し始めましたが、新潟大学の歯学部は、かなり早いうちに射程圏外になりました。そんな感じで東京歯科大学に入学し、口腔再建外科講座の齋藤力教授に講義や病院実習でお世話になっていました。

大学5年生のときに齋藤教授が新潟大学に赴任すると聞き、当時はすごく驚いたのを覚えています。その時はまさか自分も新潟大学に来るとは想像もしていませんでした。

卒業後は東京歯科大学水道橋病院の口腔外科で臨床経験を積んでいましたが、3年目の時に大きな人生の転機をむかえました。

日常生活で車イスが必要になってしまうという大きな事故を起こしてしまったことです。これはさすがに精神的にきつかったし、歯科医師になって臨床が楽しくなってきた時にもう歯科医業ができなくなってしまったと落ち込みました。

その後、リハビリ中に新潟市や高知で開業している車イスの先生にお会いすることができたことと、現在所属している矯正学講座の齋藤功教授と話をさせていただくことができたのが、臨床医としてがんばろうと奮起したきっかけでした。そん

な経緯で大学院に入学することになりました。

大学院の研究は放射線科にお世話になり、CTを利用した3次元でのセファロ分析に関する研究をしました。大学時代から研究には興味が持てなかったのですが研究方法や進め方がわからず最初はとても苦労しましたが放射線科、矯正科の先生にアドバイスをいただきながら研究を進めていくことができました。卒業後も大学には在籍する予定なので継続的に研究していければと思っています。

臨床では、矯正治療は患者様の治療期間が長く、自分の上達の程度があまり実感できず不安になるときもありましたが、指導医の先生にみてもらいながら貴重な臨床経験を積むことができました。

4年間の大学院生活は大変でしたが、充実したものでした。挫折しそうになったときもありましたが、なんとかやってこれたのも指導してくださった先生達のおかげです。

放射線科、矯正科の先生達、また車イスの学生を受け入れるにあたり尽力していただいた方に、この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 大学院修了にあたって

歯周診断・再建学分野 平野絵美

地元新潟に戻り早4年間の月日が経とうとしています。私は東京歯科大学出身、臨床研修も同大学で行いました。大学院進学を決めたのは学部学生の時に卒業論文を書いていたことで、臨床のみならず研究にも興味があり、今後何十年か続く歯医者生活の中で4年くらい寄り道して、もう少し色々な世界を見て学ぶのもいいのではないかと思ったからです。

私の研究は「妊娠と歯周炎の関係」という女性としてとても興味深いテーマでした。私が最初に行った研究は、わかりやすく言えば、「妊婦さんの血液から採取したDNAを使い、PPARG $\gamma$ という遺伝子の型を判定し、歯周炎や早産になりやすさと関係があるかを調べる」というものでした。手技的には簡単なものでしたが研究初心者である私にとってはすべてのことが新鮮でし

た。特にはじめて DNA を採取した時は感激しました。自分の血液から白い糸のような形をしたものがチューブ内の液体中にふわふわと浮かんでいました。そして次の工程へ進むと、その DNA はすっかり液体に溶けて見えなくなりました(不安)。目に見えなくなってしまった DNA を次は PCR で増幅させ、電気泳動しました。するとちゃんと DNA がありました。白くふわふわに見えていた DNA が紫外線を当てると光って見えました。今後この工程を何百回と行うとともに DNA が光って見える感動は無くなりましたが、失敗続きで光らなくなってしまうときなど、先輩や先生方や仲間に助言を頂いたり、自分で試行錯誤して条件を変えて成功した瞬間は違った感動がありました。

この4年間を振り返り、研修後すぐに開業医へ就職していたら経験することが困難であったであろう様々な経験、また、出会いがあり、いろいろ

な分野で世界を広げることが出来ました。世界の最先端の研究、治療を行っている先生方の講義を聴けること、大学支援で2回も国際学会で発表できたこと、研究成果を英語で論文にまとめる力がついたこと、症例をまとめ発表する力がついたこと、英語が身近な言葉になったこと、学部学生の実習を通じて指導に携われたこと。最後になりましたが、臨床、実験、論文、そして私生活のことも踏まえすべてにおいて大変お世話になった指導医の杉田先生、貴重な学会発表などの機会を与えて下さった教授、臨床で困っている時に親身に相談に乗って下さった先生方、私のことにもかわからず、実験で夜遅くまで教えて下さった先輩や友人、励ましてくれた後輩、興味深い授業をして下さった先生方、また他講座にも関わらず気にかけて頂きお世話になった先生方に対して感謝の気持ちが後を絶ちません。4年間本当にありがとうございました。



## 平成22年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名(専攻)	博士論文名
博士(歯学)	杉本 智子 (口腔生命科学)	オーラルディアドコキネシスを用いた構音機能の評価と発声発語器官障害との関連
博士(歯学)	頭山 高子 (口腔生命科学)	三年制歯科衛生士教育における臨床実習の実質化
博士(歯学)	西川 敦 (口腔生命科学)	マイクロRNA-17-92は Bcl11b の発現を抑制し、アポトーシスを誘導する
博士(歯学)	長澤 麻沙子 (口腔生命科学)	Histological observation of the Peri-implant bone under Occlusal overloading in a Novel Rat Model (ラット過剰咬合モデルを用いたインプラント周囲骨の組織学的観察)
博士(歯学)	都 仁 (口腔生命科学)	Phenotypes of the articular disc cells in the rat temporomandibular joint as demonstrated by immunohistochemistry for nestin and GFAP (ネスチンとグリア線維性酸性タンパクの免疫組織化学により明らかになったラット顎関節関節円板細胞のフェノタイプについて)
博士(歯学)	高野 弘子 (口腔生命科学)	口腔保健指導が健常高齢者の味覚機能に及ぼす影響
博士(歯学)	松田 みどり (口腔生命科学)	知的障害者の口腔衛生に顔面口腔体操が及ぼす影響
博士(歯学)	長津 聡子 (口腔生命科学)	表情筋トレーニングが笑顔時の顔面可動性と表情筋活動に及ぼす影響
博士(歯学)	高橋 直紀 (口腔生命科学)	IL-1 receptor-associated kinase-M in gingival epithelial cells attenuates the inflammatory response elicited by <i>Porphyromonas gingivalis</i> (歯肉上皮細胞の <i>Porphyromonas gingivalis</i> 応答性炎症反応における IL-1 receptor-associated kinase-M の関与)
博士(歯学)	前川 知樹 (口腔生命科学)	<i>Porphyromonas gingivalis</i> Antigens and Interleukin-6 Stimulate the Production of Monocyte Chemoattractant Protein-1 via the Upregulation of Early Growth Response-1 Transcription in Human Coronary Artery Endothelial Cells ( <i>Porphyromonas gingivalis</i> 抗原および IL-6 刺激は血管内皮細胞において転写因子 Egr-1 を介して MCP-1 の産生を増強する)
博士(歯学)	平野 絵美 (口腔生命科学)	Peroxisome proliferator-activated receptor-gamma polymorphism and periodontitis in pregnant Japanese women (日本人妊婦におけるペルオキシソーム増殖活性受容体ガンマ遺伝子多型と歯周炎)
博士(歯学)	阿部 大輔 (口腔生命科学)	Altered gene expression in leukocyte transendothelial migration and cell communication pathways in periodontitis-affected gingival tissues (歯周炎罹患部歯肉組織における白血球経皮内移動経路と細胞伝達経路における遺伝子発現の変化)
博士(歯学)	清水 太郎 (口腔生命科学)	Microarray and quantitative RT-PCR analyses in calcium-channel blockers induced gingival overgrowth tissues of periodontitis patients (薬剤性歯肉増殖症の特異的遺伝子発現の網羅的解析及び関連遺伝子発現レベルの検索)
博士(歯学)	工藤 和子 (口腔生命科学)	上顎前方移動術が口蓋裂患者の言語機能に及ぼす影響について
博士(歯学)	杉山 尚道 (口腔生命科学)	上下顎移動術を施行した骨格性下顎前突症例における術後変化について

博士の専攻分野の名称	氏名(専攻)	博士論文名
博士(歯学)	永井嘉洋 (口腔生命科学)	顎顔面形態の評価に有用な3次元計測点の再現性に関する研究
博士(歯学)	吉田留巳 (口腔生命科学)	口唇裂・口蓋裂患児の第I期矯正治療終了時期における母親の意思決定プロセスとその構造
博士(歯学)	福原孝子 (口腔生命科学)	Effects of electrical stimulation of the superior laryngeal nerve on the jaw-opening reflex (上喉頭神経への電気刺激が開口反射に与える影響)
博士(歯学)	金子敦郎 (口腔生命科学)	加速度計を用いた頭位測定装置による歯科治療とデスクワークの頭部姿勢の比較
博士(歯学)	山下絵美 (口腔生命科学)	Correlations between alveolar bone microstructure and bone turnover markers in pre- and post-menopausal women (閉経前後の女性における歯槽骨微細構造と骨代謝マーカーの相関関係)
博士(歯学)	青山祥子 (口腔生命科学)	Prognostic factors of Autotransplantation of teeth with complete root formation (歯根完成歯移植の予後因子に関する検討)
博士(歯学)	佐藤秀樹 (口腔生命科学)	Tympanometric changes after orthognathic surgery for dentofacial deformities (顎変形症に対する顎矯正手術後のティンパノメトリーにおける耳管機能の変化)
博士(歯学)	長谷川真弓 (口腔生命科学)	Differential expression profiles of perlecan-binding growth factors between carcinoma <i>in-situ</i> and invasive squamous cell carcinoma of the oral mucosa (口腔粘膜上皮内癌と浸潤癌で対比的なパールカン結合増殖因子の発現様式)
博士(歯学)	富樫正樹 (口腔生命科学)	Effects of surgical orthodontic treatment for dentofacial deformities on signs and symptoms of temporomandibular joint (顎変形症に対する顎矯正手術が顎関節症状に及ぼす影響)
博士(歯学)	荒澤 恵 (口腔生命科学)	Evaluation of bone volume changes after sinus floor augmentation with autogenous bone grafts (自家骨移植による上顎洞底挙上術後の増生骨量の経時的変化)



## 平成22年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻論文博士取得者

博士の専攻 分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	JUNI HANDAJANI （口腔生命科学）	Survival of Root Canal Pulp Tissue after Pulpitis （歯髄炎後の歯根歯髄の生存）
博士（学術）	牧野 智宏 （口腔生命科学）	Comprehensive Engineering of <i>Escherichia coli</i> for Enhanced Expression of IgG Antibodies （大腸菌を用いた完全長 IgG 抗体の発現の最適化と抗体医薬品開発への応用）



## 平成22年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻修士課程修了者論文名

修士の専攻 分野の名称	氏名（専攻）	修士論文名
修士 (口腔保健福祉学)	當 摩 紗 衣 (口腔生命福祉学)	青年期自閉症者に対する歯磨き支援—視覚支援ツールの応用—
修士 (口腔保健福祉学)	安 齋 さや香 (口腔生命福祉学)	新潟県内介護保険施設における口腔機能向上の取り組みの実態に関する研究
修士 (口腔保健福祉学)	大 橋 乃梨子 (口腔生命福祉学)	歯の変色が患者の心理に与える影響—第1報 変色歯外来初診時アンケートの集計—
修士 (口腔保健福祉学)	中 田 悠 (口腔生命福祉学)	フッ化物洗口剤の味による嗜好性に関する研究
修士 (口腔保健福祉学)	南 部 友 貴 (口腔生命福祉学)	レストレイナーの使用状況による小児患者の歯科診療に対する適応性の変化
修士 (口腔保健福祉学)	星 野 友里奈 (口腔生命福祉学)	矯正歯科診療室受診患者を対象とした歯科衛生士による行動変容支援型歯科保健指導プログラムの評価

